



# 私の彼氏



～ゾウに乗って砂漠を越えて～

TAKA

ナマステ。

インド人の彼は、カレーが好き。

でも辛いのは苦手。

私の作った激辛カレーを、汗をいっぱいかいて食べてくれる。

そんな彼が私は好き。

.

棚を作ってくれるというので一緒にホームセンターに行く。

結局できあいの棚を買って帰る。

「この方がエコですから」

と彼が笑顔でいう。

彼が幸せなら私も幸せなので、「そうだね」と相づちをうつ。

お母さん、私は嘘つきですか？

.

我が家のルール。

トイレを使ったら、必ず消臭剤を使うこと。

昨日入ったら、小窓に小鳥が止まっていて目が合った。

ルール、その2。

トイレの小窓に鳥のエサを置いてはいけない。

餌付け禁止。

.

テレビを見ている彼。

背中合わせでマンガを読んでいる私。

彼の背中はやさしい。

背中で押すと、押されたまま、しばらくして元の位置にちゃんと戻ってくる。

向こうからは押してこない。

それに温かさもちょうどいい。

たまに「トイレに行っていていいですか」と聞くけれど、「ダメ」と私がいうと、おとなしく引き下がる。

調子に乗って体重をあずけると、

「重いです」

というのもいい。

.

制服にアイロンをかける。

彼がやりたいというので、

「日本では男の人はやってはいけないことになっています」

とウソを教える。

「そんな話は聞いたことがありません」

と食い下がるので、マッサージと交換条件でやらせてあげることにする。

彼が「男がやってはいけないことが他にもありますか」とたずねるので、身内以外の女性に寝顔を見せてはいけない。

他人の家で靴下を脱いではいけない。

女性に重い物を持たせてはいけない。

「あとこれは、最近の若い男性は気にしないけれど...」

カップラーメンのツユを、最後まで飲んではいけない。下品だから。

とウソを教える。

彼は、

「日本人は昔から健康に気を使いますね」

としきりに感心していた。

.

待ち合わせ。

一度もほめてくれない。

なんだか腹が立つ。

「どうしました？」

と聞いてくるけど無視。

「あなたは怒ると鼻が小さくなりますね」

と彼がいうので、

「なりません」

と返すと、そこから会話が始まってしまった。

「インドゾウも怒ると鼻が短くなります」

「ウソでしょ？」

「鼻が短くなると変な顔になって他のゾウに笑われるので、ゾウはあまり怒りません」

「絶対ウソ」

「はい、ウソです」

彼が笑って私の顔を見る。

あんまり見るので私は自分の鼻を手で隠す。

確かにちょっと小さいような気がしてくやしい。

.

深夜、急に不安になって眠れなくなってしまう。

「どうしました？」と彼が目をこすりながら身を起こす。

私をしばらく見つめると、彼は私の手を握ってくれる。

彼の手はちょっとごつごつしている。

それでも私は彼の手を握ると少し落ち着く。

彼の手を握らせてもらったまま、私は眠りにつく。

彼はちょっと乾いた砂の匂いがする。

砂漠なんて行ったことないのに。

都会育ちで、ガンジズ川で沐浴もしたことないって。

私はようやく眠ることができる。

夢の中で、私はゾウに乗ってガンジズ川を渡っている。

ゾウはゾウの姿をしているけれど、そのゾウは彼なのだと私にはちゃんとわかっていて、安心して彼の背中に乗っている。

彼は砂漠からやって来て、彼の歩く場所だけは川になるのだ。

夢の中で私は笑っている。

おしまい。